

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	株式会社だんらん
(ユニット名)	グループホームだんらん
所在地 (県・市町村名)	新潟県上越市頸城区北方125-8
記入者名 (管理者)	村松ふじえ
記入日	平成 21年 6月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者が自分のペースで元気に日常生活を送れるように毎朝理念・目標をかかげて唱和し、支援の内容や、自分の介護に対する姿勢を振り返っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員、利用者家族で共有し、問題があれば職員会、家族会で検討している。行事の都度、理念や目標の話をしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会、運営推進会議、行事等で説明し、具体的な取り組みについて話し合う機会を設けている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の途中で一緒に腰を下ろして話したり、行事等にも多数参加されている。また、ご近所の方々が野菜等の差し入れを持ってきてくださり、一緒にお茶のみをされる。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	どっど外に出て、地域の人達と会話を楽しんだり、老人会の発表会や、保育園の行事にも参加のお誘いをいただく。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>介護相談や住宅改修、福祉用具等についての相談やアドバイスをやっている。(大工や福祉用具専門相談員の資格など、職員一人一人の資格を生かす機会となっている)</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価についてみんなで話し合い、日々の生活の中で迷いごとがあった時は、自己評価項目を見て確認しあっている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>十分に報告している。また、運営推進会議でされたことは、職員間で話し合いを十分に行い、ご家族様に意見を聞いたりして改善に取り組んでいる。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>どんな小さなことでも疑問に思う事や、迷う事は行政に連絡、相談をし、早急に対応を行っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在のご利用者様の中にも当施設に入居してから成年後見人制度を利用された方がいる。講師を招き、ご家族様や運営推進会議のメンバーを集めて講演を行ってもらったが、現在は他にその必要性があると思われる方がいない。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>学習会を行い、職員の意識の向上に努めている。時には、きつい言葉や方言での会話も聴かれるが、お互いに注意しあえる雰囲気である。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>日頃よりご利用者様やご家族様へは説明をさせていただき、十分に話を聞いている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎朝、受け持ちが挨拶をし、不満や苦情を遠慮なく表出できるように支援している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>訪問時、行事、家族会等を利用し、ご利用者様の施設での暮らしぶりや、健康状態についての報告をしている。必要に応じて電話等もしている。職員の異動についても家族会や行事であいさつを行い、訪問時も個別で挨拶を行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営に大きく反映している。行事後にはご家族様に集まっていたいただき、行事の反省会、ご家族様が普段思われている不満や疑問、悩みを聞き、遠慮なく意見を出し合ったり、訪問時に個別に聞いたり、アンケートをとったりして意見を聞く機会を作っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>自由に意見の言える雰囲気作りをしている。また、直接言えないことはリーダーを通して話をするなどしている。また、年に何回かアンケートをとって意見を聞いている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟な対応に努めている。増員が必要な場合は、管理者や事務員が対応し、業務に支障が出ないように努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職者がほとんどいない。異動についても常に外で顔見知りになっており、気楽に話ができる雰囲気である。正職員では開業から1名退職したのみである。(定年を超えていたが、ケアマネージャーだった為、可能な限り努めていただき、67歳で退職された。)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修、外部実習を行っている。特に新人職員には事業所のリーダーを指導員として、段階的に指導、チェックを行い、振り返りをしている。それによって指導するリーダーの育成にもつながっている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	だんらんは開所が早かったこともあり、実習生の受入れ要請が沢山あり、可能な限り受入れを行っている。積極的に研修に出るようにし、同業者との交流する機会を設けている。今年度は某事業所のヘルパー2級取得の外部実習受入れ事業所として、3月までに100名のヘルパー2級の実習生の受入れを行う。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	一人で悩まずに職員会議やケースカンファレンスで十分に話している。夜間はいつでもSOSを出せる体制ができています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修等に積極的に出てもらえるように支援している。勤務しながら資格取得に励んでいる職員もいる。事業所としては全面的に応援、協力をしていきたいと思っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自由に話せる雰囲気、環境作りを行っている。ご家族様と何度も見学やお茶のみにこられてから入居していただくように努力している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	十分に行っている。納得された上で利用を開始されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に努めている。他のサービス利用のアドバイスや同業他社の施設も紹介している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族様と一緒に見学をされ、特に施設周辺の環境を気に入られる。見学前にはホームページを見てある程度の情報を持っての見学者が多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	築いている。ご利用者様一人一人のありのままを受け入れ、人生の先輩として沢山の事を学びながら、一緒に泣いたり、笑ったり、怒ったりしながら楽しい毎日を過ごしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	訪問時には必ずご利用者様の現在の状態を報告し、家族の希望や思いを聞いたり、お互いに情報を共有し、ご利用者様とご家族様がゆっくりと過ごせるように支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	支援してる。家族と一緒に時間を共有出来る様に、家族の訪問時は居室にお茶を運び、ゆっくりと過ごしていただいている。外食、外出等の支援も行っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。以前からのお付き合いをされていた方々の面会も多く、訪問時にはゆっくりと過ごしていただけるようにしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	支援している。孤立しないように声掛けや働きかけを行っている。また、仲の良い人達で楽しめるスペースもあり、思い思いの場所で過ごされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	大切にしている。困っていることや、悩み等の相談にのり、他事業所の紹介やアドバイスを行っている。また、グループホームを退居されて在宅に帰られる方で、だんらんで行っている共用型デイサービスを利用された方もいる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望に応じて散歩や買い物に出かけている。困難な場合は、他の施設の紹介もしている。ケースカンファレンスにより検討。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当のケアマネやご家族様から十分に情報を得ている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	把握している。本人が生き生き出来る様に、ご利用者様の有する力を発揮して施設での生活に活かせるように環境を整えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケースカンファレンス、ご家族様との定期的な話し合いの場を設けている。職員のカンファレンスについては事前に職員全員が対象者についての情報の全てを書き出して提出し、共有した上でカンファレンスを行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケースカンファレンスやご家族様からの意見等を聞き、随時介護計画の見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。気づきや工夫についてはケースカンファレンスをして意見を出したり、情報を共有して介護計画に取り込んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	柔軟な支援をしている。遠方におられるご家族様には電話やホームページで情報を知らせ、訪問時には意見をお聞きして、出来るだけご希望に添えるような対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	支援している。消防訓練、行事等に多数のボランティア、地域住民の参加がある。定期的にボランティアの方々が来てくださることもあり、ご利用様はボランティアの方が来られるのを楽しみにされている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	支援している。共用型デイサービスを開業したことをきっかけに今まで以上に居宅介護事業所や他の介護サービス事業所との関わりを持つ事ができた。また、行政の行っている布団乾燥、紙おむつの支給、散髪の助成サービスを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	去年より、成年後見人制度を1名の方が利用された。地域包括支援センターの職員には運営推進会議のメンバーに入らせていただいている。まただんらんでも地域のケア会議に参加し、協力をしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。かかりつけ医、協力医療機関との関係が構築されていてご利用者ご家族様に安心していただけるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援している。一般内科の薬と精神科の薬の重複について連絡を取ったり、副作用等の症状が出た場合などに情報提供を行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師は常勤。協力医療機関の医師がとても協力的である。(夜間の連絡や休日の往診もしていただいている。)		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	支援している。情報の共有をしている。また、退院後には協力医療機関の医師のもとへ戻れるように入院中から随時、情報を提供をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	共有している。ご家族様への説明、それに対する受容の確認をしながら、説明を繰り返している。職員はターミナルに関する話し合いをしたり、計画を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	取り組んでいる。ご家族様からも協力が得られている。職員も勉強会等を行い、看取りについての知識を高めている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	支援している。ご家族様、担当ケアマネと連携し、最後までアドバイス等をしている。ご家族様からもとても喜んでいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>情報について漏らさないように十分に気を使っている。たとえば排泄の時の声がけなども「私とちょっと向こうへ行ってきましたか?」と声がけをして誘導している。また、家族の希望がある場合は個人記録等の情報開示を行っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>出来るだけご利用者様のご希望を聞いて、実行に移せるようにしている。毎朝「今日は私が担当させていただきます。何でも話してください。」とあいさつをして遠慮なく話せるきっかけを作っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>出来るだけ希望に添えるように努力している。散歩やドライブなど、その日の状況によっては即日に出かけることもある。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の好むものを着ていただけるように自分で用意できない人には、2～3枚見ていただいてどちらを着るかご本人に選んでいただいている。行事の時はご家族様の協力を得ておしゃれを楽しんでいただいている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>できる人は調理の準備、後片付け等のお手伝いをしていただき、ご家族様の訪問時には一緒に食事を食べていただいている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒、コーヒー等、本人の好む物は出来るだけ遠慮なく楽しんでいただいている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄管理が出来ないご利用者様については排泄ノートを作り、排泄状況を把握するようにしている。尿意を感じたら落ち着きがなくなるので、出来るだけ動き出すサインを見逃さないようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	着脱や洗身については、本人が出来るだけ自分のペースできるように支援している。曜日、時間の希望があれば出来るだけ対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、天気のいい日は日常的に外に出て、散歩をしたり、日光浴をしたりして、その後に十分な休息がとれるような支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者様一人一人の力が発揮できるようにダスキンがけや洗濯物干し、洗濯たたみ等をしていただき、本人たちも満足そうである。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のご利用者様では難しい方がいる為、行っていない。今後、工夫をしていきたい。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	春から秋まで、日常的に外に出て散歩やドライブを楽しんでいただいている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様の協力を得て、外食や買い物、日帰り旅行(温泉)等を支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には電話可能。手紙を本人の希望があれば出すことが出来る。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自由に過ごしていただけるように環境を整えている。居室でお茶を飲みながらゆっくりと談笑していただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会を行い、意識の向上に努めている。身体拘束は行わないように工夫をしている。しかし、ご利用者様の中には難しい方がいる。身体が大きく揺れて危険を伴うご利用者様については、車イスに腰を風呂敷で固定して散歩をしていただいたり、一人で外に出て戻って来れないご利用者様に対しては、職員の付き添いが可能な時間帯に外に出ていただいている。(外に出て戻れなくなるご利用者様は、入居前にバイパスを徒歩で歩いていて警察に保護された。)		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は出来るだけ鍵を掛けないようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	排泄支援の時に「私と散歩しましょう、ちょっと向こうへ行ってみませんか？」と声がけをすることになっているが、つい「トイレに行きましょう」と声を掛けてしまう事があるので、職員が注意を払っている。夜間は夜勤者が中央で待機し、施設内全体が見渡せるようにし、ご利用者様の状況把握に努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者様一人一人の状態に合わせてご家族様と相談して対応している。(針、はさみなどの持ち込みについて)		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	学習会やカンファレンスによって意識を高め、起こりうる予測される事故防止について取り組んでいる。避難訓練、火災発生時の対応については、専門業者により、講義、指導を行っていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	計画的に学習会を行い、意識の向上に努めている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を行っている。地域の皆様にも協力をいただいている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族への説明を十分に行い、職員間でも情報を共有し、考えられるリスクや予測されることについて、常に話し合っている。毎月、職員会議でアクシデント・インシデントについての報告を行い、改善策を検討し、対策をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り、連絡帳等を利用し、情報の共有、体調変化の時には看護師に報告を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋つづりがあり、一人一人の情報をいつまでも確認出来る様になっている。特別な薬や新たに処方された薬については、その都度職員に説明している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、乳酸菌、野菜を中心に食べていただくようにしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	必ず食後に口腔ケアを行っている。出来ないご利用者様についてはご利用者様の状態にあった支援を行っている。毎日、口腔機能向上運動を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を把握出来る様に各テーブルに1人ずつ職員がついて食事摂取量を確認している。献立や摂取カロリーについても定期的に外部の方に指導していただいている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	必ず調理に使用した物をハイター消毒し、介護職員は直接調理に携わらないようにしている。マニュアルを使用し、学習会も行い、職員の知識向上に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	掲示物を貼り、職員やご利用者様の意識を高めている。調理前後の手指消毒、洗浄の徹底を指導している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	自由にご近所の方々が寄られる。玄関にはご近所の方々がくださった野菜等がよく置かれている。ご家族様からも時間に関係なく、多数の方の面会がある。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾ったり、山菜を一緒に下ごしらえしたりして楽しむことを支援している。日常的に外に出て、草木や風、鳥の声を聴いて季節感を感じていただけるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外に出たり、ベランダに出たり小上がりで横になったりして思い思いの時間を過ごしておられる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫してる。お部屋も自分の思い通りに工夫したり、飾りを飾っている。仏壇を持ち込まれている方もいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行っている。こまめに声かけをして着衣の調整をいただいている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体機能の把握をし、安全に日常生活がおくれるように工夫、配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の状態に合わせ、職員間で話し合いを十分に行い、不安を取り除くような工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	活用する為の工夫をしている。日光浴、散歩等が日常的に行われている。また、草花も職員と一緒に育てたり、楽しまれている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

だんらんは施設という雰囲気ではなく、一般住宅に家族の一員として共に生活をする居場所です。ご利用者様同士も出来ない事はお互いに助け合いながら共に生活しています。ご利用者様の持つ能力を可能な限り引き出す事により、ご利用者様が人生の先輩として職員に教えていただける事も沢山あります。可能な限りの情報をご家族様、そしてグループホームの入居を検討している皆様に発信し、元気に生き活きと暮らしている様子をホームページを通じて紹介しています。グループホームは比較的閉鎖的になりやすいと言われており、実際に見学自由と言っている施設で見学を断られたりすることがありますが、だんらんはいつでも気軽に来れる雰囲気作り、ご家族様が来訪された時にはゆっくりと過ごしていただける居場所作りをしています。